

福賀 ニュース

福岡貿易会情報誌



福岡貿易会 第53回総会・交流会 開催



新規入会会員紹介

6月6日(水)、西鉄グランドホテルにて福岡貿易会第53回総会・交流会を開催しました。

記念講演会では、「九州の中小企業がリードする日本の未来～希望の時代は、もう始まっている～」と題し、J-Tech Transfer & Trading代表・福岡貿易会アドバイザーの小島尚貴氏にご講演をいただきました。九州には世界の成長市場が求める商品・技術がたくさんあり、海外バイヤーの視点に立った「デジタル化+外国語化」による情報発信を行うことが中小企業のビジネス機会創出に大変有効である点について事例を交えてお話しいただき、集まった160名の参加者は熱心に聞き入っていました。

総会では、平成29年度の事業報告および収支決算報告、役員を選任等の議案説明がなされ、提案された議案については全会一致で承認されました。また、議案審議後には今年度の事業計画および収支予算等について報告、説明が行われました。

引き続き開催された交流会では、官公庁や関係機関、在福岡外国公館からのご来賓の皆様をはじめ、来福されたミャンマー商工会議所や福岡ギフトショーの海外バイヤーの方々など多数の皆様にご参加いただき、会員・参加者同士が懇親を深め、最後まで盛況のうちに終わることができました。



小島先生による講演



土屋会長ご挨拶



ラオス訪問団派遣レポート

平成30年2月25日から3月3日の間で、福岡・ラオス友好協会主催・福岡貿易会共催でラオスに訪問団を派遣しました。平成27年11月に国交樹立60周年を記念して「FACo in LAOS・福岡アジアコレクション」を首都ヴィエンチャンで開催しましたが、今回の訪問団は小林副会長（福岡ラオス友好協会会長）を団長、土屋貿易会会長・津田福岡ラオス友好協会前会長を副団長として19名が参加しました。従来の経済視察一辺倒から、ラオスのファンを増やすことを目的にラオスが初めてという女性陣に声掛けをし、半分以上が女性という華やいた団となりました。行程は25,26日ヴィエンチャン市を、27,28日は今までに訪問したことがないラオス北部の自然豊かなシェンクワン県を、3月1,2日は旅愁溢れる古都ルアンプラバンを廻りました。福岡・ラオス友好協会情報誌「ラオスニュースNo.15」より一部を報告いたします。

2月25,26日ヴィエンチャン市内視察

25日は福岡空港からベトナム・ホーチミン〜カンボジア・プノンペンを経由し夜ヴィエンチャン到着。

翌26日は9時ジェットロヴィエンチャン訪問から〜日本センター〜ラオス財閥KPグループ〜スーパン計画投資大臣〜ヴィエンチャン市内中央部〜19時からの在ラオス日本大使館、大使公邸での夕食交流会と分刻みの強行スケジュールでした。

◆スーパン計画投資大臣訪問

スーパン大臣とは2回目の面談となり、スーパン大臣から下記の話がありました

- ラオスに対する援助について感謝する。ラオスと日本の関係が永く続くことを願っている。
- まだ最貧国であるが、ラオスの5ヶ年計画では2030年までに中間国ぐらゐまでを目指す。
- 27,28日訪問予定のシェンクワンはベトナム戦争時、アメリカの空爆で、300万トンの爆弾が落とされ、寺院も破壊され、不発弾も残っており、毎年犠牲者も出ている。
- シェンクワンの石壺が並ぶジャール平原遺跡群はユネスコの世界遺産に登録される。



計画投資省 応接室にて面談

小林会長からお土産贈呈

◆在ラオス日本大使館大使公邸訪問、夕食交流会

26日の強行スケジュールをしたのが在ラオス引原特命全権大使公邸での夕食交流会でした。

引原大使から平成27年のFACo開催、28年11月のスーパン計画投資大臣、29年3月のソーンサイ副首相の来福時の受け入れについてのお礼と、今後ともラオスと日本の交流へ尽力願いたいのご挨拶の後、美味しい料理とお酒をご馳走になり、最後は土屋福岡貿易会会長の博多手一本でまられました。



在ラオス日本大使公邸エントランス

◆ジェットロヴィエンチャン、日本センター訪問



JETRO岩上所長によるブリーフィング

日本センター前にて

◆ヴィエンチャン市内都市開発現場の視察



中国資本で進められている中心部の都市開発

◆ラオス財閥KPグループ 訪問

ラオスの財閥の一つで、日本での留学（天理大学）の経験を持たれ、奥様は日本人という大の日本最長のKPグループ・ケマサCEOとトヨタラオスの柴田社長から、KPグループの事業概要について説明を受けました。KPグループは系列会社13社、従業員2200名で、トヨタ、TOTOなどの代理人でキュウリのきゅうちゃんも製造し、今年から熊本の農産物・海産物をタイ、ラオスに輸入する事業も始められたそうです。



ケマサCEOから説明を受ける

■2月27,28日シェンクワン県訪問

ヴィエンチャンからフライト時間30分、ラオス北部シェンクワン県・ポーンサワン空港に到着。高度を下げてくるにつれ、眼下に無数のクレーターが見えてきました。これはベトナム戦争時、米軍によって落とされた爆弾によってできたもの。ベトナム戦争時、ベトナム軍は北部ハノイから南のサイゴン（今のホーチミン）への兵士・物資輸送ルート・所謂ホーチミンルートはベトナム領土ではなくラオス領内の山岳地帯を通過していました。その補給路を断つため、米軍が爆撃を行い、爆撃が最も激しかったところがシェンクワン県で、いまだに不発弾による被害が出ているとのこと。

シェンクワンでは自然と歴史遺産の視察とベトナム戦争による悲惨な爪痕を廻る2日間でした。特に記憶に残るものとしては2019年に世界遺産に登録されるというジャール平原の石壺群（最近では石棺との説が有力）、爆撃で屋根が吹っ飛び仏像だけが残っているワットピアワット寺院、427人の市民が米軍のロケット砲で犠牲になったタムピュ洞窟と不発弾展示室では沖縄のひめゆりの塔を思い起こされました。

丘の上に立つホテルからの日の出、豊富な水を利用した一面のクレソン畑、そのクレソン畑と後背地の山々にたなびく雲海、自然がいっぱいの風景はまさに一服の絵でした。27日シェンクワン県知事よりシェンクワン県の産業振興、観光開発について要請を受けました。



シェンクワン県知事交代式出席

シブライ市長等との夕食交流会

◆シェンクワン県、自然遺産と歴史遺産



一面のクレソン畑とたなびく雲海

土産物売りの山岳民族の女性



ジャール平原石壺群



爆撃で屋根が吹っ飛んだ仏像

■世界遺産ルアンプラバンを巡る

2007年ニューヨークタイムズで今世界で一番行きたい街として紹介されたルアンプラバン。欧米のバックパッカー、リタイアシニアの人たちで街中がにぎわっているルアンプラバン。日本には村上春樹さんの「ラオスにいったい何があるというんですか?」で紹介され、行ってみたい街の一つとして脚光を浴びてきています。しかし今回の訪問で失われていきつつあるものを目にしました。朝の托鉢もあまりに観光化されてきていることと、メコン川に建設中の中国からの鉄道用鉄橋、鉄道が開通すれば中国からの旅行者と都市開発のための労働者の流入であつという間にけばけばしいものになってしまうことを危惧しました。



ルアンプラバンのシンボル・ワットシェントーン



メコン川に建設中の鉄橋。 一帯一路構想で中国化の進むラオス



王宮博物館

【中国の歴代王朝から 博多・福岡を見る】

元福岡貿易会上海事務所
所長 奥田 聖
(現福岡市総務企画局)



ただ、更に遡るなら、西暦57年に中国に使者を送り、金印を賜った「奴国」がある。「漢委奴国王」と刻まれた金印は、福岡市内から出土しており、奴国も福岡にあったと言われている。約2,000年前に国が存在し、人々が暮らしていた…。福岡は、そんな2,000年前の物語に想いを馳せることができる日本全国でもかなり稀有な都市である。

では、なぜ西暦57年に福岡から中国の都まで使者が派遣されたのだろうか？

中国では、紀元前221年、約500年に及んだ春秋戦国時代を経て「秦の始皇帝」が中国統一し、歴史上の大きなターニングポイントを迎える。太古の時代の500年は長い。国が分かれ、文化が分かれ、文字すらも分かれた。中国は、そのままヨーロッパのように分裂したまま違う国になっていた可能性もあつただろう。そこを「始皇帝」は一つの国としてまとめてしまった。しかし、力づくの統一には様々な無理が生じ、秦王朝は極めて短命で終わってしまう。その後を継いだのが、漢王朝を打ち立てた「高祖・劉邦」で、中国は一応の安定を得る。「漢」字、「漢」語、「漢」民族と、今につながる「中国＝漢」という認識は、この時の王朝が安定し、中国文化の基礎を作ったことに由来しているだろう。

しかしながら、漢王朝は政治基盤としては不安定な部分もあつた。そんな中、実権をにぎった王莽が皇帝から帝位を篡奪し、自らが皇帝に即位するという事件が起こった。王莽自身は、自らが最高権力者になることで儒教による理想的な国づくりを行おうとしたのだが、西暦23年、わずか15年で滅んでしまう。

さて、どうだろう？ 500年間分裂した中国は、250年間の統一を経て、再び混沌とした王なき時代に突入してしまった。群雄割拠の時代が訪れる中、漢王室の末裔と称する「劉秀」が戦乱に勝利し、中国に「再統一」という未来を与えた。劉秀は、「光武帝」を名乗り、洛陽を都とし王朝を開いた。

光武帝は、しばらく内政に力を注いだ後、20年ほどを

経て、山東省泰山にて天と地に対して王の即位を知らせる「封禪の儀」を執り行い、名実ともに皇帝となった。その後200年続く「後漢王朝」の安定がもたらされた。

実は、奴国が使者を送った西暦57年というのは、正にこのタイミングである。封禪の儀は西暦56年である。国を挙げた一大行事が終わり、洛陽に戻って一息ついた頃のタイミングだろう。光武帝は、その西暦57年に亡くなっているため、使者はギリギリの所で建国の祖に会えたことになる。

奴国は漢から国王の称号を受け、冊封されることで朝鮮半島の情勢を優位に進める政治的意図があつたらしい。文字で記録こそ残されていないが、中国大陸で起こっている情勢についてしっかりと情報を収集し、国際的な視点での戦略を考えた結果、使者の派遣を決めたような気がしてならない。

私は洛陽へ行き、光武帝の陵墓に手を合わせてきた。後漢が滅びた後の中国では、三国志の時代に突入する。魏呉蜀と三ヶ国に分かれた中国であつたが、西安や洛陽など中原と言われる地域を制していた魏が優勢であつた。曹操の孫、曹叡が皇帝の頃、蜀の名将・諸葛孔明が病没し、魏の首都であつた洛陽はようやく落ち着きを取り戻す。倭国の邪馬台国から洛陽に使者が訪れるのは、そのわずか4年後の238年である。



洛陽の後漢・光武帝陵

2. 中国の再統一が福岡にもたらしたもの

中国の歴史は長すぎて時間の感覚が狂いがちになる。後漢王朝が滅んで国は分裂状態が続いていたが、約350年を経てようやく強力な統一王朝が誕生した。隋王朝である。350年間という時間は、何世代くらいの世代交代を要するものなのだろうか。恐らく分裂している状態が、完全にスタンダードな感覚になっていただろう。それを覆して中国大陸全体を代表する統一王朝が誕生したので。

倭国では聖徳太子により遣隋使の派遣が行われた。「日出る国の天子…」で始まる聖徳太子からの書簡を受け取った隋の煬帝は大激怒した。暴君として知られた皇帝であるが当時の隋は朝鮮半島の高句麗と対立していたため、倭国の遣隋使を受け入れることになる。朝鮮半島の国々も、統

一王朝の誕生で緊迫した国際情勢を迎えていたのだ。

聖徳太子は、こうした国際情勢まで読んでいたのだろうか。結果的に、こうした絶妙なパワーバランスの上で、日本は隋王朝と国交を結び、先進技術を手に入れるための仏教、そして仏教を学ぶための漢字を学ぶことが可能になった。漢字という文字を手に入れた日本は、自ら自国の歴史の編纂・古事記日本書紀を始め、日本史の幕が開けることになる。

煬帝は、高句麗に度々侵攻したがいずれも失敗に終わり、戦争や運河建設の負担に苦しむ民の声と部下の裏切りもあって隋王朝はたった2代で幕を閉じる。しかし、煬帝の従兄弟にあたる李淵とその息子・李世民が「唐王朝」を打ち立てたことは、福岡に大きな変化をもたらすことになる。

唐王朝は、隋王朝崩壊の原因ともなった高句麗を攻略するために一計を案じた。三ヶ国に分かれていた朝鮮半島の国々の内、唐から最も遠い位置にあつた新羅と手を組んだ。そして、いきなり高句麗を挟み撃ちにするのではなく、まず残る一国の百済を攻めた。倭国にとって、新羅は宿敵で、百済は同盟国である。倭国は苦悩の末、百済を救うため海を越えて派兵した。663年「白村江の戦い」である。倭国はここで唐・新羅連合軍にコテンパンにやられる。こうして、朝鮮半島の南半分を制圧した唐と新羅は、その後、高句麗を挟み撃ちにして滅ぼし、新羅が朝鮮半島を統一することになる。

白村江の戦いを指揮していた中大兄皇子は、唐と新羅がそのまま倭国に攻め入ってくることを恐れた。そこで、倭国の防衛体制を強化するため、博多に防衛ラインをしいた。大野城、基肆城、そして水城である。この時築いた城は、江戸時代の城とは異なり朝鮮式山城である。山城では、山全体を防衛拠点にする。そして、その防衛ラインの内側に大宰府政庁を置き、外側に迎賓館である鴻臚館を置いた。舞鶴公園で発見された鴻臚館である。

当時は、鴻臚館から大宰府政庁まで真っすぐ道が伸びていたという。中国や朝鮮から使節団が訪れると、客人は鴻臚館にとどまり、その間に水城の向こうの大宰府政庁では役人たちが都に使者を送り、今で言うところの入国審査を行った。つまり、今の福岡市の周辺は、防衛ラインの外側で外国と倭国との国境地域という役割を担っていたのである。そして、それは日本人に対しても同じであつた。

遣隋使・遣唐使として中国に渡る者は鴻臚館で最後の旅支度をして出発した。帰国者も、まず大宰府に報告に行かねばならなかった。空海や最澄も例外ではない。彼らが出発した地も博多、帰国した地も博多である。したがって、博多には東長寺や東光院など、空海や最澄の縁が残る寺が存在する。

鑑真もそうだ。5回の渡航に失敗し、6回目ようやく日本に流れ着いた後、まず大宰府に向かった。そして、そこで日本で初めてとなる仏教の授戒を行ったのだ。今も大宰府政庁のすぐ近くに残る戒壇院である。

こうした鴻臚館と大宰府政庁との関係は、894年に菅原道真が遣唐使を廃止するまで続いた。しかし、その後、徐々に鴻臚館の機能も衰える。遣唐使廃止の理由には諸説ある。とはいえ、唐王朝自体は907年に滅んでおり、894年の段階では既に崩壊の兆しが出ていた。つまり、遣唐使や鴻臚館、そして国境としての博多の機能は、唐王朝の崩壊とともにその役目を終えた。日本では、この後、平安時代の国風文化に入っていく。



かつての防衛ライン「水城」

3. 宋の憂鬱と商人の街・博多の誕生

唐王朝の崩壊は、中国に再び分裂の時代をもたらした。しかし、この時は比較的短い期間で再統一を果たした。趙匡胤が興した「宋王朝」である。

趙匡胤は、皇帝の座についた後、分裂の時代に勢力を増した地方の軍事勢力の勢力を削ぐことに注力し、軍事力を皇帝直属の禁軍に集め、その他の政治権力も皇帝に集中させた。これにより、官僚を中心とした文治主義へと転換する。しかし、宋王朝の軍事力低下は、周辺の国への圧力を減らし、彼らの力が増大する結果を招いた。そこで宋王朝は遼や西夏といった周辺国に毎年財貨を送ることで和平条約を結ぶことにした。毎年金銭的な負担はあるものの、この和平条約により国境警備などの負担が軽減でき、結果的に宋に好景気をもたらすことになる。役職だけの官僚も増え、そのせいで国家財政は逼迫していくが、貨幣経済が浸透し、全国に物流網が張り巡らされていったことで、交易が盛んに行われるようになった。

その後、遼のエリアで金という国が興った時、宋王朝は金と手を組み、遼を挟み撃ちにすることになった。しかし、軍事力が低い宋軍は戦で役に立たず、結果的にほとんど金の力に頼ることになった。それにもかかわらず、宋の官僚たちは、金に対して強硬論を主張し、金の怒りを買ってしまう。金は首都・開封をあっという間に陥落させると、

皇帝と皇族を金へ連行、妃や娘たちを娼婦として売ってしまった。前代未聞の出来事である。皇族で唯一難を逃れた高宗は、南に逃げ、杭州を首都として宋王朝の再興を図った。「南宋」と呼ばれる時代の始まりである。

貨幣経済の浸透もあり、経済的には南宋になった後も盛んな交易が続く。しかも、領土の北半分を失い、シルクロードの陸路も見込めなくなったため、海路での交易が中心となった。首都・杭州に近い寧波(明州)の港がその一大拠点港である。寧波というのは、唐王朝の時代、博多から出航した遣唐使船が目的地としていた港町である。今の上海に近い。南宋が経済発展をするにつれて、寧波と博多との交易は増加した。例えば、人口急増により南宋で需要が増した木材を、周防の国から伐採し、博多から輸出することで補った。宋からは代わりに宋銭が持ち込まれ、日本を貨幣経済に巻き込んでいった。これが日宋貿易であり、これに目を付けたのが平清盛である。

平清盛は、博多に袖の湊を開き、日宋貿易で富を築き、武家の世の中を作った。恐らく、博多の街はとても賑わっていたのだろう。この頃、南宋から多くの中国人が博多に移り住み貿易の拠点を設けた。その拠点は「博多津唐房」と呼ばれ、日本最古のチャイナタウンとなった。今の冷泉公園や櫛田神社の一带である。



博多古図 (西暦1100年頃)

この頃の博多には中国の情報があふれていたのだろう。臨濟宗を伝えた栄西は、はじめ天台宗を学ぶことを志して南宋に渡った。南宋行きの船を待つ間、博多で「今南宋では禅宗が人気だ」という情報を得ているのである。

また、この頃、博多の街で貿易を取り仕切る「綱首(こうしゅ)」と呼ばれる中国人商人が活躍する。代表的な人物が謝国明である。謝国明は、南宋の首都・杭州の出身であった。その杭州にあった著名な禅寺・径山万寿寺に、日本の僧が禅宗を学びにきた。その僧こそが聖一国師である。謝国明は帰国した聖一国師に協力し、博多に禅寺「承天寺」を開いた。

聖一国師は、うどん、そば、羊羹、まんじゅうの製法を伝えたと言われている。その他、聖一国師は、持ち帰った茶の実を故郷の静岡に植えたことから静岡県がお茶の

産地になったという。また、聖一国師に同行した満田彌三右衛門により伝えられた織物の技法が、後の「博多織」となったということである。

聖一国師は、博多の街が疫病で苦しんでいる時に施餓鬼棚に乗って祈祷水をまいた。ユネスコ無形文化遺産にも指定されている「博多祇園山笠」の起源である。

さらに、聖一国師が修行した杭州の径山万寿寺が火災に遭った際には、謝国明を通して板千枚を寄進した。この時送られた径山万寿寺の無準師範の礼状が、「板渡しの墨蹟」として国宝に指定され保存されている。また、この時のつながりで2014年に承天寺に新たに「博多千年門」が完成した際にも、径山万寿寺から「萬年正續」という扁額が贈られた。その博多千年門のすぐ近くには、「大楠様」として親しまれている謝国明の墓所がある。

この時代は「中世博多」として知られ、博多文化が花開いた時代でもある。博多と寧波の間の日宋貿易によりもたらされたものだ。しかし、そこには、中国が南北に分断されたことで、寧波の近くの杭州に南宋の首都が置かれたことの影響が大きいと思う。

私は、聖一国師が学んだ径山万寿山にも登ってみた。径山の山頂にあるその禅寺は、ただただ静かで、見渡すばかりの山々に囲まれていた。宋王朝を興した趙匡胤も、宋が抱えた優秀な官僚たちも、それぞれに最善の道を模索したはずである。しかし、その結果、宋王朝は悲劇に見舞われ、人々は力強い禅宗に救いを求め、海上交易で活路を見出すことになった。それは、日本に貨幣経済をもたらし、福岡に「博多」を生み、活気と今に続く地域文化を与えた。

径山の山々は何も変わらない。だが、人の世は様々な要因が絡み合いながら、国を越え、地域を越え、ダイナミックに変化していく。



杭州に今も残る径山万寿寺

4. 異民族の支配と博多の進化

宋王朝の繁栄を背景に、大いに発展を遂げた博多の街であったが、ここで日本がかつて経験したことのない大事件が博多に襲いかかる。「文永の役・弘安の役」、いわ

ゆる「元寇」である。きっかけは、またしても中国大陸における情勢の変化である。モンゴルの台頭である。モンゴル人の強さの秘密は、モンゴル草原に立ってみたら分かるような気がする。移動を基本とする彼らは土地のような不動産にあまり頓着しない。戦いに勝利したら、敗者のものは勝者の戦利品という考え方をする。したがって、モンゴル帝国が拡大する過程で、数で劣るモンゴル人は、奪い取った土地でその土地の人々をモンゴル式の軍として再編成し、次の攻撃地に向けた軍隊として再編する。元寇は、やはり騎馬民族のモンゴル人が、モンゴル人らしく領土を拡大した結果に起こった出来事だと思ふのである。

フビライ・ハーンは数回に渡って朝鮮半島の高麗を攻めモンゴルの支配下においた。早速高麗軍を動員して起こしたのが「文永の役」だった。なお、この頃はまだ南宋王朝は滅んでいない。フビライは、一方で日本に侵攻しながら、一方では南宋の首都・杭州を攻め立てていた。そして1279年、ついに南宋王朝は滅亡する。そして、そのわずか2年後、今度は高麗軍と南宋軍に命じて日本に再び侵攻した。これが「弘安の役」である。

さて、博多では、こうしたモンゴルの軍隊に防衛する必要があった。しかし、そもそも中大兄皇子がイメージしていた防衛ラインは水城である。文永の役の際は、水城でモンゴル軍の侵攻を防いだということであるから、ある意味では古代の防衛システムは有効であった。しかし、白村江の戦から600年の間に、防衛ラインの外側に街が発展してしまっていた。そのため、文永の役の後、海岸沿いに新たに石垣を築いて防衛ラインを作り直す必要が生じた。これが「元寇防塁」である。しかし、防衛のためには、それを行う兵力と指揮系統が必要になる。そのため、元寇後には、九州に所領を持つ御家人に博多湾沿岸の警備が義務づけられ、博多の街に武士が増える。更に彼ら九州の御家人を統率するために「鎮西探題」が博多に置かれ、幕府の執権・北条氏の一族が赴任してくることになる。これにより、政治の中心が大宰府から博多に移った。

日本史から見た場合、元寇は災厄であり、鎌倉幕府弱体化の原因の一つにも挙げられる。土地に頓着せずに、ひたすら破壊と再生を繰り返しながら支配地域を広げるモンゴル帝国によって歴史が一度分断された国も多い。生き残ったことで防衛機能を強化する必要が生じ、博多は単なる貿易の港町から、武士という軍隊と軍隊を統括するための政府機関が置かれ、都市機能が強化されていく。また、モンゴル帝国という史上類をみない超巨大帝国ができたことは、今で言えば、関税フリーの一大自由貿易圏が誕生したようなものである。中国と他地域との貿易は盛んになった。博多でも、元寇という災厄にも関

わらず、日元貿易は盛んに行われたという。ただ、博多側の貿易の担い手では、元寇を機に南宋人の姿が消えていくのである。



西南大学構内に残る元寇防塁

5. 明の海禁政策と博多の全盛期

紅巾の乱で頭角を現した朱元璋が中国の南半分から元軍を追い出し、南京で皇帝を名乗り、明王朝を起こした頃、東シナ海には倭寇が跋扈していた。朱元璋は、すぐに日本に使者を送り、倭寇鎮圧を命じる。朱元璋としては、海上の盗賊に気を取られている暇などなく、さっさと北へ逃げた元軍を追いかけたかった。しかし、使者が到着した日本は、ちょうど南北朝時代の対立の中にあっ

博多はその時、南朝の支配下にあった。征西大將軍として九州に派遣された懐良親王が大原合戦に打ち勝ち、九州を統一させたところだった。懐良親王は「日本国王」に冊封されるが、その後北朝勢力によって九州の統治権を奪われたため、朱元璋の明王朝と日本との国交が成立することはなかった。朱元璋は日本との外交を諦め、海禁政策をとることになる。

異民族支配だった元王朝に代わって成立した漢民族の明王朝の成立では、偉大な中華民族の復興が意識の中にあるようである。永楽帝の時代「鄭和」に命じ、コロンブスより早く大船団を組んでアフリカ東海岸まで7回の南海遠征をおこなっている。

国土も広く、資源も多い中国では、そもそも他国との交易は必要がない。しかし、周辺地域から皇帝の徳を頼って使者を派遣してきたら、皇帝側は相手を地域の王と認めて恩賜を与える、という考え方である。朝貢によって貿易を行う朝貢貿易である。ただ、朝貢貿易では、皇帝の側は威厳を示す必要があるため、相手が持ってきたものよりも価値のあるものを与えなければならない。朝貢貿易は皇帝の臣下となるという屈辱はあるものの、朝貢する側から考えた場合、必ず儲かるビジネスであるとも言える。足利義満にその日明貿易の利を説いたのは博多商人・肥富であった。肥富は最初の遣明船にも副使として乗船している。

こうして始まった日明貿易は、博多の街を大いに潤した。足利将軍が直接貿易に手を出さなくなってくると、博多商人は守護大名の大内氏と結びつき、管領家の細川氏と組んだ堺商人と貿易の果実を奪い合った。あまりにも頻繁に遣明船が送り出されるため、明側から「遣明船は10年に一回、船は三隻までにしてくれ」と制限されるほどであった。また、博多豪商三傑に数えられる神屋宗湛の曾祖父の頃には日明貿易に供するために石見銀山の開発にも乗り出している。更に1523年には寧波の港で大内氏の遣明船と細川氏の遣明船が鉢合わせ、乱闘騒ぎになる事件があった。「寧波の乱」と呼ばれたこの事件で、最終的に日明貿易の権益は大内氏と博多商人が独占することになる。そして「富を生む街・博多」は戦乱の時代龍造寺氏、大友氏、毛利氏、島津氏と取り合いの場となり、戦火にまみれた。

その後博多を九州征伐、朝鮮出兵の拠点とした豊臣秀吉により、復興され「太閤町割り」が行われ、博多は前述した博多豪商三傑の時代を迎えた。

6. 博多から福岡へ

博多と中国をめぐる物語は、ここで急に終わりを告げる。江戸時代になり、幕府は貿易を長崎に限定した。いわゆる鎖国である。博多は、ここでそのアイデンティティともいえる国際貿易拠点都市としての地位を喪失してしまった。そして、ちょうどこの頃、黒田長政が新しい領主としてこの地に城を築き「福岡」という地名を命名した。この時から江戸時代を通して、この地には「武士の町・福岡」と「商人の町・博多」が併存することになる。

江戸末期、日本はペリーの来航により開港が決まるが、その中には博多港は含まれていなかった。中国や朝鮮半島を相手にした貿易では、安土桃山時代まで揺るぎない優位性を誇っていた博多であったが、アメリカ相手の貿易ではその優位性は発揮しにくかったのであろう。明治に入っても、博多は国際貿易拠点としての地位を復権させることなく、1890年の市議会で「福岡市」の一部となることが決まる。わずか1票差の決議であった。

その後、1899年(明治32年)に博多港はようやく開港された。かつて貿易の最前線だった面影も消え、小さな地方港としての再スタートであった。このように鎖国により港機能を制限され、明治維新の波にも乗り損ねた福岡であったが、その後、九州最大の商業都市として底力を見せる。現在、福岡は九州エリアの中心都市として、九州事業を統括する部署や機能が集中し、人口減少が始まっている日本において、今なお高い人口増加率を示し、「日本一元気な都市」などとも言われている。

一方、中国の近代に目を向けると、明王朝を引き継

いだ「清王朝」も海禁政策を取っていた。その最後の清王朝が崩壊する遠因の一つに、1840年のアヘン戦争、1894年に起こった日清戦争の敗北がある。日中関係だけで言えば、日清戦争は日中間の国力が逆転する転機となった。その後、中国は長い低迷期を迎える。ようやく中国の国家としての体制が整うのは、1949年の中華人民共和国の成立を待たなければならない。

中国はその後毛沢東国家主席による計画経済から1978年改革開放・市場経済導入にかじを切り、1989年天安門事件を経て、90年代、00年代を通して急速な経済発展を遂げ、2010年日本を抜いて世界第二位の経済大国となってきたことは衆知のとおりである。前述したように明治維新で出遅れた福岡が商業都市として生まれ変わる再生の時期と奇妙に重なる。

奇しくも天安門事件と同じ1989年に福岡市では「アジア太平洋博覧会(よかトピア)」が開催され、翌年には当時の桑原市長により「アジア太平洋都市宣言」が出された。これを機に、福岡は名実ともに日本を代表する大都市として、また九州の中心都市としての地位を固めたと言ってもいいだろう。

7. そして「福岡+博多」の時代へ

金印の時代から博多豪商三傑(安土桃山時代)でピークを迎える「博多」の成長物語を第一幕とするなら、国際貿易を禁じられた江戸時代から現代に至る「福岡」の再生物話が第二幕である。

今回スポットをあてた第一幕を語るには、平安時代とか、鎌倉時代とか、日本の時代区分に沿った説明ではなく、中国の王朝の変化に合わせて説明したほうが、すっきりと博多の変化を説明できるということが分かってもらえたのではないだろうか。これは恐らく、博多の歴史が、中国の王朝の交代に伴って起こる変化に大きく影響を受けながら発展してきたことと関わりがあるだろう。

これから世界は中国が更に台頭してくる時代を迎える。これは短期的なものではなく、ひょっとするとこれまでも歴史上何度も訪れた中国王朝の最盛期の頃のパワーバランスに戻ろうとしているだけなのかもしれない。そうなれば、かつて中国で起こった変化で様々な余波が博多を襲ったよ

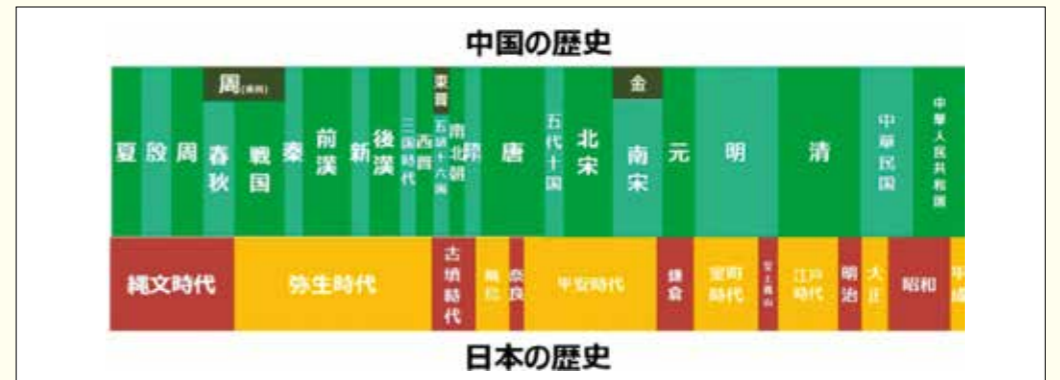
うに、こちらから見たら意味不明の急な対応を迫られることが増えるのではないだろうか。

例えば、近年、博多港で急増した中国からのクルーズ船。これは、中国でクルーズ船市場が急速に発展したことによる。中国で暮らしていたら、旅行社がクルーズツアーの広告を貼りだし、テレビでCMも流れ、市場の広がりを感じることができる。しかし、寄港地としての福岡にはその準備がない。

そのため、よく分からないままに中国のクルーズ市場の波に巻き込まれてしまった感覚になってしまう。他に前例を調べようにも、福岡に最初にやってくるため、参考にできるものもなく、自力で対応を考えなければならない。

そうであるなら、これからの福岡に求められるのは、日本の都市間競争に勝つという視点での「福岡」の発想に加え、海外の変化をいち早くとらえて、それを都市の活力に変えるという「博多」としての発想なのではないだろうか。海の向こうの動向に気を配り、機をとらえては使者を派遣し、交易と共に流れ込んでくる異人を受け入れ、自らも積極的に出向き、交易のために銀山まで開発し、日本にない食べ物の製法や織物の技術を学び改良し、軍事侵攻を受けながらも、防衛機能と共に都市機能を充実させていく。そんな経験を持っている都市など、日本の他のどこの都市を見渡しても見つからないのだ。彼らがやってきたように、アジアで起こる市場の変化をいち早く察知し、日本で対応を考える。日本にないものを持ち込んで日本人向けに改良する。往來を増やし、情報を増やし、仲間を増やす。このような「博多の経験」という福岡が持っている唯一無二の宝物に気づいたら、中国の台頭など恐れるに足りない。ピンチをチャンスに変えてきた博多の力を備えた「福岡+博多」の力で、きっと更なる飛躍を遂げことができるだろうと思えるのだ。

今世界第2位の経済大国となった中国は、習近平国家主席の元、「一帯一路・シルクロード」構想を掲げ、「偉大な中華の復興」を目指している。陸路と海路で中国、中央アジア、ヨーロッパ、東南アジア、アフリカを結ぼうというものである。拡大する中国にどう向き合うか日本にとってとても大きな課題である。今こそ博多と中国の関係を生かしていくべき時と考える。



福岡貿易会ゴルフコンペ

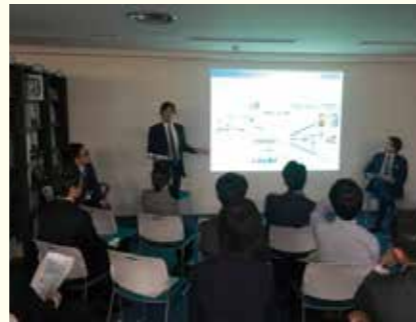
4月17日（火）、伊都ゴルフ倶楽部にて第72回ゴルフコンペを開催しました。当日は小雨が降る天気でしたが、和やかな雰囲気の中、総勢42名での春のコンペとなり、参加者同士で懇親を深めました。また今回も多くのお客様から豪華賞品の提供をいただいたの表彰式となりました。次回は秋に開催予定です。ぜひ皆様ご参加下さい。



会員勉強会・交流会

4月23日（月）、福岡貿易会事務所にて、新規事業の会員勉強会・交流会を開催しました。第1回目は34名の参加のもと、(株)ユウシステムの入江社長様、(株)正興電機製作所の鬼木部長様のお二方をスピーカーにお迎えし、自社の取り組みや海外展開の方向性などについてお話いただきました。その後、参加者同士で意見交換を行い、場所を移しての交流会で親睦を深めました。

この会員勉強会・交流会は、会員相互でより接点ができる場を目指して開催するもので、今後も2ヶ月に1度のペースで実施していきます。会員の皆様にはぜひスピーカーでのご参加をお待ちしています。



福岡・ラオス友好協会総会・交流会

5月15日（火）、平和楼本店にて、福岡・ラオス友好協会の第9回総会・交流会が開催されました。総会後の交流会では、ヴィロード駐日ラオス人民共和国特命全権大使、ラオスからの留学生8名をはじめとして、九州経済産業局、福岡県、福岡市から多数のご来賓をお迎えし、今後のラオスでの事業展開などについて活発な意見交換を行いました。福岡貿易会からも土屋会長をはじめ会員企業が多数参加して交流を深めました。



セミナー等開催報告

貿易保険&海外与信管理入門セミナー

<日時> 1月25日（木）14：00～16：50
<ところ> 福岡商工会議所ビル8F 801研修室
<講師> (株)日本貿易保険 大阪支店 斎藤 健佑 氏
(株)クレディセーフ企業情報 代表取締役 牧野 和彦 氏
<内容> ・貿易保険の概要と取引リスクのヘッジ
・海外取引リスク低減に向けた企業調査サービスの活用法

参加者のことば

- ▶ 生鮮品の海外輸出について具体的に検討しており保険について調査中だったため非常に役に立った。
- ▶ 今まで知らなかった日本と海外の与信管理の違いなどを学べた。



海外ビジネス展開におけるリスクとその対策

<日時> 3月2日（金）14：00～16：45
<ところ> 商工会議所ビル404-405会議室
<講師> 東京海上日動火災保険(株)日系グローバル推進室 塩田 徹也 氏
(株)クレストック 国際法令規格アドバイザー 清水 義孝 氏
<内容> ・東南アジアでのビジネス展開におけるリスクとその対策
・輸出製品の取扱説明書の重要性

参加者のことば

- ▶ 製造物PL保険だけではなく、海外法人出張者対応の保険内容を知ることができた。
- ▶ 取説の大切さ、重要性が理解できた。自社製品の取説内容が不足部分の多さに気づくことができた。



国際宅配便で始める、超簡単!海外通販ビジネス

<日時> 3月8日（木）13：30～16：30
<ところ> 福岡商工会議所4F 401-402会議室
<講師> J-Tech Transfer & Trading 代表 小島 尚貴 氏
FedEx Express Strategic Account Manager 浜中 康至 氏
<内容> ・あらゆる物をあらゆる国に輸出・販売した豊富な経験から導かれた技・秘訣とは、実例から学ぶ国際物流のイロハ

参加者のことば

- ▶ メーカーはものづくりに集中してもらい、海外ニーズをつかんで商品の説明を動画で視覚的な説明と証明を行い、海外バイヤーから欲しいと言わせるプラットフォームづくりのサービス構築が大変役立つ。



税関セミナー

<日時> 3月14日（水）14：00～16：30
<ところ> 商工会議所ビル407会議室
<講師> 門司税関福岡空港税関支署支署長 深山 清文 氏
門司税関福岡空港税関支署 統括審査官 杉 忠士 氏
門司税関業務部原産地調査官 山口 達也 氏
<テーマ> 福岡空港税関支署の概況について
平成30年度関税改正の概要について
原産地規則について

参加者のことば

- ▶ 最新情報をどこからどのタイミングでどのように得られるのかわからないので、かみ砕いて説明いただけるのは有難かった。EPAに基づく特恵待遇について役立った。
- ▶ 関係法令等の改正、変更点等事前に知ることができ、情報のアップデートができるので役立ちます。



新人・新任者向け貿易研修会第1部「貿易実務入門講座」

<日時> 5月9日（水）10日（木）9：30～16：30
<ところ> 福岡商工会議所2階 第2研修室
<講師> 中矢一虎法律事務所（司法書士 行政書士）
代表取締役 中矢 一虎 氏
<テーマ> 初めて学ぶ貿易実務の基礎・貿易営業の考え方と商談の進め方

参加者のことば

- ▶ 4月入社したばかりで貿易実務に関する知識が浅く、自社で教えてもらったものの把握できていなかった内容をさらに詳しく説明していただき、全体の流れとして理解することができました。また先生の具体的な経験談、平易な言葉での国際情勢の説明で大変勉強になりました。
- ▶ これから海外展開を考えているところだったので、言うなれば素人が学ぶ機会そのものが有難かった。思った以上に資料も整っていて本格的だと感じました。



新 会 員 の ご 紹 介

新人・新任者向け貿易研修会第2部「施設見学」

<日 時> 5月17日(木) 8:30~18:00
 <ところ> 博多駅筑紫口集合・解散、大型バスにて移動
 門司植物防疫所福岡空港出張所・福岡空港税関支署・
 福岡エアーカーゴターミナル(株)・山九(株)福岡物流センター
 ベジフルスタジアム・香椎パークポートコンテナターミナル・
 アイランドシティコンテナターミナル



参加者のことば

- 座学で学んだ「シッピングマーク」が表示された貨物を見ることができ、段ボールの表示一つにも重要な意味があることを実感し、現場を実際に見学できて物流のイメージをつかむことができた。
- 分かりやすい説明で、今後関わる業界の現場を見ることができて非常に充実したものとなりました。

夜間講座 初めての中国語会話(総まとめ編)

<日 時> 1月24日~3月14日 毎週水曜日 19:00~20:30 全8回
 <ところ> 福岡貿易会事務所
 <講師> 中国語教室一語学EIWA 代表 李 岩氏
 <テーマ> 春から使用したテキスト1冊分の総まとめ



参加者のことば

- 李老師と福岡貿易会のおかげで、今までにない意欲が湧いております。日頃の準備と温かいご指導、また、ご丁寧に毎週復習内容を送付下さる熱意に心から感謝いたします。

夜間講座 誰でも「マルチリンガル」になれる外国語学習法

<日 時> 1月30日・2月2日 19:00~20:30 全2回
 <ところ> 福岡貿易会事務所
 <講師> J-Tech Transfer & Trading 代表 小島 尚貴氏
 <テーマ> 基礎編: 忘れないコツ、相乗効果活用で学習時間を節約、
 力を入れる部分の見極め、よく練られた例文作成の着眼点
 実践編: IT、とりわけTTS技術と「デスクトップ録音」ソフト、
 PCを活用した、学習成果の定着化



参加者のことば

- 記憶の方法、言葉を学ぶという理屈が良くわかった。短い時間での知識と言語習得のこの技を身に付け、更に得意分野を増やしていきたい。また、部下に対しても伝えたいと思います。
- 動詞と形容詞の変化を意識して、覚えていくやり方は非常に有効と感じました。言語学習をやった人にしか語れない内容で、外国語と向き合うことに嫌になっていた自分の気持ちをリセットできました。

夜間講座 ビジネス中国語会話上級編

<日 時> 2月1日~3月22日 毎週木曜日 19:00~20:30 全8回
 <ところ> 福岡貿易会事務所
 <講師> 北京ニーハオ中国語センター 代表 蔣 晶氏
 <テーマ> 「アプリを使った中国飲食出前サービス」や「インバウンド集客のためのアリペイ決済」等についてゲストスピーカーを招くなど、中国語で最新のビジネスや文化について語る場を持つ。



参加者のことば

- 全て中国語の授業で週に一度話す機会があるのはとても良いと思いました。中国の変化に合わせて新しい言葉がどんどん生まれている中、今回の授業は今の中国に関する内容がたくさん盛り込まれていて新鮮で楽しい授業でした。
- 少人数で密度の濃い講義内容。受講者の中国語力が高い。他の受講者からも毎回多くの刺激を頂きました。また途中で開催された茶会では、中国茶の種類や飲み方、またマナーなど取引先と仕事以外の話題ができ語学だけでなく文化についても理解が深まった。

夜間講座 ビジネス英会話講座上級編

<日 時> 2月6日~3月27日 毎週火曜日 19:00~20:30 全8回
 <ところ> 福岡貿易会事務所
 <講師> Speech Wings Ms. Eileen Kae Abrío Relao
 <テーマ> Communication Strategies, Decision-making, Cultural Intelligence (CQ), Negotiation, Conflict Management, Business Pitching



参加者のことば

- 目標達成に向けた適切なアプローチやコミュニケーション方法を学ぶことで即戦力が身についた。自分の今後の課題を把握することができ、有意義な時間を過ごすことができたと思います。
- 教室の雰囲気も良い上、参加者の意識が高く、日本人同士の打ち合わせや休憩中も英語で会話をしていた。単にテキストの読み上げを聴く形ではなく、毎時間各人が発表を前でする機会があった。

ベルリッツ・ジャパン株式会社

代表者: 西日本法人営業部九州エリア担当 河野 将悟
 所在地: 福岡天神ランゲージセンター
 福岡市中央区天神2丁目8-34 住友生命福岡ビル2階
 TEL: 092-717-1665 FAX: 092-717-1225
 MAIL: skawano@lc.berlitz.co.jp
 URL: www.berlitz-sd.jp

主要業務:

私たちベルリッツ・ジャパンは、語学教育を核とするコミュニケーション・ビジネスを通じて、個人や組織の発展と日本社会のグローバル化に貢献します。

当社の特色:

おかげさまで今年140周年を迎えた弊社は、現在、世界70カ国、約500拠点にて、語学教育、グローバルコミュニケーションスキル開発&トレーニングを実施しております。さらに今年度より九州法人営業部を設立しました。グローバルビジネスの現場で活躍する人材に必要なとされる能力、スキルを総合的に支援するサービス・ソリューションを体系的に揃え、グローバル化が進む九州の企業様のニーズに応えたいと考えております。宜しくお願い致します。



平城商事株式会社

代表者: 代表取締役 平城 賢三
 所在地: 福岡県久留米市上津1丁目10-35
 TEL: 0942-21-6388 FAX: 0942-22-0048
 MAIL: k-hiraki@hirakishoji.co.jp
 URL: http://www.hirakishoji.co.jp

主要業務:

農業機械関連(本機・部品)、林業機械関連(本機・部品)
 農業資材、施設園芸資材、その他関連商品の販売
 Amazon、楽天、ヤフー Eコマースにおける通信販売事業

当社の特色:

緑と生活を繋ぎ、人々の豊かな暮らしに貢献します。当社は、全国でも珍しい卸とネット通販事業を両軸とする体制を採っています。商品は約26万点取扱っており、また商品開発事業にも取り組んでおります。商品力の高さと自社テレフォンオペレーターによるお問い合わせ対応の充実で、お客様から信頼をいただいております。虫除けリストバンド『ラダキャン』は、東京インターナショナル・ギフト・ショー 2017にて“輸入品部門 準大賞”を受賞しました。このようなヒット商品を開拓するために、国内はもちろん海外へも足を伸ばしています。



株式会社レオパレス21 福岡支店

代表者: 営業部長 渡邊 司
 所在地: 福岡県福岡市博多区博多駅東2-5-33
 TEL: 092-482-1240 FAX: 092-482-1295
 MAIL: 76757@leopalace.ne.jp
 URL: https://www.leopalace21.co.jp/gros/

主要業務:

グローバルな人事異動をトータルサポートいたします!
 ・海外赴任者トータルサポート
 ・海外人事アウトソーシング
 ・外国人社員受入プレミアムサポート
 ・ビジネストラベルマネジメント
 ・海外進出サポート

当社の特色:

当社は2002年のソウルへの進出を皮切りに、釜山・北京・大連・上海・広州・台北・ハノイ・ホーチミン・バンコク・シラチャー・プノンペン・ヤンゴン・マニラ・ジャカルタ・シンガポールと16拠点に展開しております。各拠点でのリソースや国内のレオパレスグループのネットワークを活かし、グローバルな人事異動に関するさまざまな課題をトータルにご支援いたします。インバウンド・アウトバウンド・進出に関するお困りごとは是非、ご相談ください。



フェデックス エクスプレス

代表者: 氏家 正道
 所在地: 〒261-7110 千葉県千葉市美浜区中瀬2-6-1
 ワールドビジネスガーデン
 TEL・FAX 0120-003-200
 URL: fedex.com/jp

主要業務:

世界最大の総合航空貨物輸送会社であるフェデックス エクスプレスは、迅速かつ高い信頼性の配送サービスを世界220以上の国と地域で提供しています。フェデックスは空路と陸路のグローバルネットワークを活用し、時間厳守が求められる迅速な貨物輸送、また決められた日時の輸送をマネーバックギャランティー付きで行っています*
 *マネーバックギャランティーには所定の諸条件が適用されます。

当社の特色:

福岡市内に貨物出荷カウンターがございます。営業担当者も常駐しておりますので、ぜひお気軽にご相談ください。また、カスタマーサービスにお電話いただければ集荷に伺います。
フェデックス・福岡ワールドサービスセンター
 〒812-0068
 福岡県福岡市東区社領3-7-22
 (九州航空株式会社・福岡物流倉庫・エクスプレス九州株式会社内)



ヤマエ久野株式会社

代表者: 網田 日出人
 所在地: 福岡市博多区博多駅東2丁目13番34号エコービル
 TEL: 092-474-0554 FAX: 092-474-0750
 URL: https://www.yamaehisano.co.jp/index_h.html

主要業務:

主に一般加工食品・冷凍食品・小麦粉・酒類等を仕入れ並びに農産物の加工・弁当惣菜の製造を行い、コンビニエンスストア・量販店等に販売するとともに同商品の共同配送作業と住宅資材・木材加工及び製品を建材・木材店に販売する卸売業です。

当社の特色:

原材料から加工食品、住宅資材まで幅広く商品を扱っております。食品に関しましては、約4,300社の仕入れ先様と取引があり、あらゆる産地やメーカーとの幅広いネットワーク、豊富な商品知識を駆使し、お客様のニーズに合った商品を提案致します。海外事業に関しましては、アジアを中心に酒類や調味料を輸出しています。



ict factory llc

代表者: Woywod Rebecca / Representative Director
ウォイワード レベッカ / 代表取締役
所在地: 1114-34 Imajukuaoki Nishiku, Fukuoka-shi,
Fukuoka 819-0162
福岡市西区今宿青木1114-34 〒 819-0162
TEL1: 0505-809-8804 TEL2: 092-834-2282
MAIL: r.woywod@ictfactory.co.jp
URL: www.ictfactory.co.jp



主要業務:

Automation of Business Processes (Industry 4.0); Project Management & Advisory; Business Analysis & Modelling; Design & integration of digitalization initiatives; IoT seminars & workshops; Products & services in FinTech, Web Security & Business Process Architecture

当社の特色:

Founded in 2006 in Switzerland, our core business is creation and implementation of IT service solutions and products. Our goal is a collaboration hub for international & intercultural know-how exchange & project collaboration.

西福製茶株式会社

代表者: 専務取締役 西 宏史
所在地: 福岡市博多区博多駅前1-24-14
TEL: 092-431-3349 FAX: 092-451-2429
MAIL: h-nishi@nishifukuseicha.co.jp
URL: www.nishifukuseicha.co.jp
主要業務:
日本茶の製造販売(小売り用・業務用・ギフト)
お茶のOEMやコラボ商品開発
結納品の製造販売
直営店 博多茶くら



当社の特色:

1936年に福岡に生まれた会社で、福岡の八女茶を中心に九州各地のお茶を取り扱っている日本茶メーカーです。リーフの商品の品揃えはもちろん、ティーバッグや粉末・インスタントなどライフスタイルに合った日本茶の提案をしています。八女茶をもっと手軽においしく飲んで頂けるように常に新しい提案をできるように研究・開発を行っています。こだわりのリーフ商品から簡単便利な商品まで幅広く取り揃えております。また業務用の商品も取り揃えております。九州の安心安全な茶葉を使用して、それぞれの茶葉の特徴を生かした商品づくりを行っていますのできっとお気に入りの日本茶が見つかるはずです。

有限会社メビウスソリューションズ

代表者: 代表取締役 三宅 雅文
所在地: 福岡市博多区博多駅前3-2-10-401
TEL: 090-3182-9199
MAIL: miyake.masafumi@nifty.com
URL: https://www.facebook.com/mebius/
主要業務:
・コンピュータシステムに関するコンサルティング
・企業、団体の情報システム最適化診断、再構築支援
・海外への投資、事業に関するコンサルティング
・輸出入に関する手続き代行及びコンサルティング
・海外旅行、国内旅行に関する情報収集、企画販売



・海外からの人材受入に関する支援業務

当社の特色:

グループ会社として、中国遼寧省大連市に日本独资の現地法人(美必思商務顧問大連有限公司)と台湾台北市に日本独资の現地法人(台湾美必思国際資訊有限公司)を開設しており、現地の情報収集や企業連携を独自に行うことができ、安心して海外との貿易や交流を行っていただくための支援体制を整えております。また、関係会社として大連市にソフトウェアの開発会社もあり、受託開発や情報システムの運用保守代行、バックオフィス業務のアウトソーシングをお受けできます。



メディアインターナショナル株式会社

代表者: 代表取締役 江口 征成
所在地: 福岡市博多区博多駅前1丁目1番33号
はかた近代ビル2階
TEL: 092-474-1598 FAX: 092-474-1676
MAIL: furecon@mediant.co.jp
URL: https://www.mediant.co.jp/
主要業務:
① 包装資材の開発・製造・輸入・販売業務
② アパレル、雑貨等の企画・製造・輸入卸業
③ インバウンド関連プロモーション・販促集客支援業務

当社の特色:

当社は1995年に設立以来、中国やベトナムに独资や合弁の製造拠点を設立の上、主として包装資材、特にプラスチック軟包材の自社開発、製造、販売業務をメインに事業展開しております。またプラスチック以外の各種製品の開発輸入、貿易業務も行っております。近年は日本市場以外に中国市場や東南アジア地域への販売も広げており、アジア域内に於けるものづくり、グローバル展開の経験を活かし、常に新事業への挑戦を続けております。



谷口商事株式会社

代表者: 代表取締役 谷口 金蔵
所在地: 〒826-0023 福岡県田川市上本町1-43
サンライズ恵比須2F
TEL: 0947-44-0007 FAX: 0947-44-5355
MAIL: k.taniguchi@theia.ocn.ne.jp
URL: http://kk-taniguchi.com/
主要業務:
・セメント、石灰石、各種建材の販売
・不動産取引

当社の特色:

弊社は建設会社(株)谷口組から鉱山部、運輸部、石油販売部を分離独立する形で、昭和41年に設立されました。現在、麻生セメント、船尾鉱山の販売特約店として、セメントと石灰石の販売及び各種建材の販売を主な業務としております。また、宅地建物取引業者として土地建物の売買・賃貸の業務にも携わっております。



松尾薬品産業株式会社

代表者: 代表取締役 松尾 孝三郎
所在地: 福岡県北九州市八幡東区西本町4-6-16
TEL: 093-671-0861 FAX: 093-662-4324
MAIL: info@matsuo-yakuhin.co.jp
URL: http://www.matsuo-yakuhin.co.jp/
主要業務:
1. 化学工業薬品、試薬、食品添加物、天然由来機能性原料(抗菌・消臭)、健康食品・化粧原料等の卸売販売
2. 産業廃棄物収集運搬業務
3. 薬局経営

当社の特色:

専門商社として化学工業、健康食品、化粧品、医療品、トイレタリー、農業、畜産、水産など幅広い分野での原料・材料を取り揃え、多様化するお客様のニーズに的確かつスピーディーにお応えします。お客様の問題解決を進めるためのパートナーとして原料提供のみならず、よりメリットある提案や新しい情報提供などが出来るよう努めております。



株式会社多賀谷建設

代表者: 多賀谷 勇気
所在地: 福岡県飯塚市相田1082
TEL: 0948-22-4896 FAX: 0948-22-4823
MAIL: egao2017@tagaya.jp
主要業務:
・土木一式・宅地建物取引業・舗装工事・外構工事
・建造物解体業・輸入遊具販売設置・産業廃棄物中間処理業
・大木伐採・森林整備事業・推進工事
〔小口径高耐荷力泥土圧式 小口径低耐荷力泥土圧式
小口径低耐荷力圧入2工程式
鋼製さや管一重ケーシング式 極小立坑工 取付管式〕

当社の特色:

飯塚市にて地業の建設業として、40年以上の経歴を積んでまいりました。その建設会社を中心に、法人は別ですが、解体工事業、樹木伐採・森林整備事業、公園等遊具設置業、遊園地運営業など、6社の運営をしております。職種はさまざまですが、全社共存しながら力を合わせてやっております。



シーモア イングリッシュ アカデミー

代表者: アンソニー・シーモア
TEL: 090-1344-0350
MAIL: seymourenghishacademy@gmail.com
URL: www.seymourenghishacademy.com
主要業務:
英語教育事業
・各種英会話講座の講師業務
・英語ディスカッショングループの主催
・TOEIC、TOEFL等の試験対策に特化した特別クラスの開催
・英会話レッスン用レクチャー、テキスト作成

当社の特色:

初級から上級までそれぞれのレベルに合わせたレッスンで、英語力を向上させるお手伝いをしています。特に、福岡貿易会様での「ビジネス英会話講座」を始めとしたビジネス英会話に力を入れ、プレゼンテーションやディスカッションなどの実践的なレッスンを提供いたします。また、社内における各種英語資格取得の重要性に焦点を当て、TOEICやTOEFLなどの試験対策に特化したクラスも開講予定です。更に、ご要望に合わせてレッスンのカリキュラムやテキストを作成することも可能ですので、社内英語教育でご入用の際には、ぜひ弊社にご相談ください!



有限会社九州美包

代表者: 取締役社長 本山 侃子
所在地: 福岡市南区弥永3-21-1
TEL: 092-574-6500 FAX: 092-574-6373
MAIL: info@biho.com
URL: http://biho.com
主要業務:
・塗装養生用資材(養生用粘着テープ付きシート)の開発・製造
・製品の輸出
・関連資材・商材の輸入



当社の特色:

養生用粘着テープが養生シート(ポリエチレンシートやクラフト紙)にあらかじめ貼り合わせてある「マスク」と呼ばれる製品を製造しています。主に一般建築用や自動車アフターマーケット用、ならびに自動車メーカー等の工業塗装用の養生向けとなります。顧客からの要望に応えるため、製造機を自社で開発・製作しています。



株式会社レアジョブ 九州支社

代表者: 九州支社長 金澤 雅賢
所在地: 福岡市博多区店屋町1-35 博多三井ビルディング2号館
TEL: 080-9701-3808
MAIL: Kotomi.kamachi@rarejob.co.jp
URL: https://www.rarejob.com/corporate/
主要業務:
オンライン英会話やフィリピン留学など、グローバル人材を育成する英語研修を提供しています。次世代グローバルリーダー育成や自己啓発プログラム、内定者向け英語研修等の目的で法人導入が加速しております。



当社の特色:

弊社が提供するオンライン英会話は、1回25分のマンツーマンレッスンです。パソコンやスマートフォン、タブレットで朝6時～深夜25時まで、レッスン開始5分前までに予約すればいつでもどこでも受講できます。世界最高のビジネス英語力を持つフィリピン人講師を約4,000人採用しており、高品質なレッスンを提供しております。2014年6月に東証マザーズ上場、ユーザー数は現在60万人を突破。法人向け研修については、1,700社以上に導入いただき、業界No.1のサービスとなっております。



Hi, Folks! How are you doing? I hope your business is going well.

6月になりますと各企業では新入社員が仕事に対し多少慣れてくる頃と思います。ここで、新入社員の方を含めて海外企業と通信のやり取りしている皆様に「英語コレボンの心得」を纏めとしてご紹介します。海外取引で英語を使う際は単に英語を使うのではなく、**自社と海外取引相手の双方がより良いお取引が出来る事を目指し英語を使います。**故に「英語でのコレボン」も単に英語を使うのではなくて、色々な工夫が必要です。

心得1) Mutual daily communication does come first to get a great success in overseas trading.】=先ずは、取引両社相互の日々の意思疎通が大事で、輸出入取引の成否のカギです。積極的に海外企業と連絡しあい意思疎通を図るようにしましょう!その為には相手に分かり良い英語を使います。

心得2) 実際の期日・数字を使います。「出来るだけ早くお返事を下さい」を【Please give us your reply on this matter ASAP.】このASAP= as soon as possibleの云い方はコレボンで使わないようにしましょう。返信希望の日時を数字で明言します。海外取引先に対して子供に諭すように厳密に・具体的に指示をします。すると海外の方はその通りに動くものです。

【Please give us your reply on this matter **by June 25 for our convenience.**】この様に期日を切ります。最後の「for our convenience」は、「大義名分」です。海外の取引先を動かすには、「**期日等実際の数字の明記**」と「**大義名分**」です。貴社にて試してみてください。上手く行きます。逆に、貴社が海外取引先に返事をする際にも、例えば「前向きに検討をしなだけ早く回答致します」を【We'll make a positive consideration on this matter and get back to you ASAP.】でなく、貴社で期日を定めて【We'll make a positive consideration on this matter and get back to you **by June26.** Please give us some more time.】と書きましょう。**何事も期日が明記されると互いに安心できますし、信頼できる取引に結実します。**上記の「**get back to us**」とは「弊社にお返事を下さい」という言い方です。覚えておいで使いこなして下さい。応用範囲が広い便利な云い方です。

心得3) 相手から確実に返事を貰う書き方: 返信を数度要請しているが、何故か「相手から返信が来ない」と場合があります。その場合、電子メールの末尾に【Please check and confirm on this matter and get back to us by 返信期日】と記載して下さい。どのemailにも本文の末尾には上記表現を付け足しますと、従来よりもお返事が来るようになります。貴社にて試してみてください。貿易取引に於いて、コレボンは重要な成功要素です。何か特定内容の書き方等に尋ねがある方はお知らせ下さいませ。Thanks for reading.

今回は、工夫をしたコレボン雛形をお見せします。質問は fuku@eos.ocn.ne.jp へどうぞ!

福岡貿易会からのお知らせ

今後開催予定のセミナー

※予定につき変更の場合があります。会員以外の方の受講も可能です。

○ 輸出ファクタリングセミナー

【日 時】 7月18日(水) 16:15 ~ 17:00
【会 場】 福岡商工会議所2階 第2研修室
【講 師】 ヤマトクレジットファイナンス株式会社
営業戦略部 部長 井村 稔氏
【内 容】 輸出代金回収リスクを解決するファクタリングサービス
【受講料】 無料

○ 外航貨物海上保険セミナー

【日 時】 8月23日(木) 14:00 ~ 16:30
【会 場】 福岡商工会議所ビル4階 401-402会議室
【講 師】 三井住友海上火災保険株式会社 海上保険部・海損部
【内 容】 外航貨物海上保険の概要他
【受講料】 無料

○ 貿易実務講座(輸出実務編)

【日 時】 輸出実務編: 10月17日(水) 9:30 ~ 16:30
輸入実務編: 10月18日(木) 9:30 ~ 16:30
【会 場】 福岡商工会議所ビル2階 第2研修室
【講 師】 中矢一虎法務事務所 代表取締役 中矢 一虎氏
【内 容】 輸出: 輸出実務の基礎と重要ポイント、新しい貿易支払い条件、安全保障貿易と外為法、事例研究 他
輸入: EPA, FTAの活用、輸入業務の流れ、輸入信用状と電子貿易決済サービス、輸入通関における関税関連 他
【受講料】 各講座 福岡貿易会会員 ¥4,000 / 非会員 ¥8,000

<夜間講座>

○ 英語で学ぶ IT Business

【日 時】 7月10日・17日・24日 毎週火曜日
19:30 ~ 20:30 全3回
【会 場】 福岡貿易会事務所
【講 師】 ict factory llc Ms. Rebecca Woywod
【受講料】 福岡貿易会会員 ¥6,000 / 非会員 ¥9,000

○ ビジネス英会話講座中級編

【日 時】 9月6日~12月13日 毎週木曜日
19:00 ~ 20:30 全15回
【会 場】 福岡貿易会事務所
【講 師】 Mr. Anthony Seymour
【内 容】 会議での会話、ネットワーク、プレゼンテーション、採用面談、時間の管理、ディスカッション
【受講料】 福岡貿易会会員 ¥24,000 / 非会員 ¥36,000

○ 2年目の中国語会話(後期)

【日 時】 9月12日~12月19日 毎週水曜日
19:00 ~ 20:30 全15回
【会 場】 福岡貿易会事務所
【講 師】 中国語教室一語学EIWA 代表 李岩氏
【内 容】 電話する。郵便局で小包を送る。病院に行く。家庭訪問。謝恩会で。
【受講料】 福岡貿易会会員 ¥22,000 / 非会員 ¥33,000